

### 本当に「監事室」の話をしますと

監事 豊崎 寿昌 (48期)



「監事室から」というタイトルを真に受けて文字通り「監事室」の話をしますが、会員の皆様は会館内で「監事室」がどこにあるかご存じでしょうか（何を隠そう、私も就任まで知りませんでした）。東弁監事室は会館6階に独立した部屋が確保されています。たった2名の監事のために厚遇です。しかし入口にはなぜか「監事室」ではなく「ミーティングルーム」（だっけ？）と書いてあり、部屋の空きスペースは時期に応じて未整理の会務関係の記録置き場として占拠活用されています。年度途中にはようやく遂に無線LANが接続できるようになりました。特筆すべきは非常に空調が貧弱エコであり、夏は蒸し暑さ、冬は肌寒さという日本の四季が十二分に体感できる仕様となっています。おっと誰か来たようだ……この話はここまでにしめよう。

さて、LIBRAの、しかもこんなつまらない記事まで目を通していただける東弁リテラシーの高い読者の方には釈迦に説法ですが、当会の財政は持続可能性に疑問符がつくというピンチを迎えています。意図せずしてそのような時期に監事の任についたわけですが、厳しい財政状況下で既に財政改革実現ワーキンググループが立ち上がり（もちろん監事も参加しています）、喫緊の課題である会費値下げと財政健全化の両立について精力的な検討を行っていることから、監事単体としてはこのWGとは重複しない分野を中心に、会財政の健全化に資する指摘や提言を行いたいと考えているところですが、会員の皆様におかれまして是非会財政についての忌憚のないご意見をいただければ幸いです。

### ペーパーレス化

監事 鈴木 敦士 (51期)



当会の財政を健全化する必要があるとして、事業費の削減、法律相談センター、公設事務所などの経費削減など様々な取り組みがされている。弁護士会の活動は、多くの会員の献身的な協力の上に成り立っている。活動の中核部分を占めるその労力については、弁護士会は基本的に対価を払っておらず、種々の実費を負担しているに過ぎない。熱心に活動している会員からすると何でそのくらい出せないのかという気持ちになるのもよくわかる。様々な人権活動について縮小させることは避けたいと個人的には思っている。

そこで、事務を効率化することによる経費削減ができないかということが検討されてきた。そのような観点で見ると、OAシステム、会館会計など検討しなければならないこと

が多いが、着実に進んでいるのがペーパーレス化である。LIBRAも紙媒体の郵送からPDFのダウンロードに切り替えることができる。個人的には紙に埋もれて生活しており、紙媒体の方が電車など空き時間に閲覧しやすいじゃないか、そもそも、書き込みができないじゃないか、など不満はある。しかし、まず監事が取り組まなくてどうするというところで、思い切ってペーパーレスに切り替えた。スマホでは見にくいのでタブレットを購入し、LIBRAを閲覧するようにした。ペーパーレス化をするメリットとしては、資料整理が容易であることや、拡大して見ることが容易であるということがある。裁判IT化も始まることであるので、紙で読んでいる会員の皆さんもペーパーレスへの切り替えをお願いしたい。